

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201537		
法人名	株式会社さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷さくら東苗穂(1F)		
所在地	札幌市東区東苗穂5条2丁目9-28		
自己評価作成日	令和3年 2月 8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170201537-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念の6つの誓いを実践することで、入居者様の主体性を尊重したその人らしく生活できるよう支援を行っており、入居者様の希望に沿った生活ができるよう取り組んでいる。

「六つの誓い」
 私たちリビングパートナーは最良の生活環境を提供します。
 1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意を払い、生きていくお手伝いを心からさせていただきます。
 2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行います。
 3. 一瞬一瞬が、その方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。
 4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。
 5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。
 6. 地域の一員として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。
 リビングパートナーとは、日々の生活を「ともに生きていく存在」です。
 私達は、その人にとって家族のような存在となり、生きていく喜びを感じて頂けるような生活環境作りを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東苗穂の閑静な住宅街に位置し、小学校やコンビニ、薬局や喫茶店等が隣接している。開設して17年の事業所は、地域交流の拠点として住民に親しみ、交流の輪を広げている。会議室を地域活動に開放したり、さくら祭りには地域や家族の人達の手伝いがあり、共に楽しいひと時を過ごしている。隣接の小、中学校の体験学習や幼稚園児が遊びに来てくれるなど、子供達とのふれあひも多彩である。コロナ禍の現在、各種行事は自粛しているが、子供達とは絵手紙やビデオレター等でやり取りを継続している。また、地域ボランティアの「さくら会」メンバーからは、変わりなく花壇や畑の手入れ、ウエスの寄付等を頂いている。利用者の日々の楽しみや安心を支えるためのケアマネジメントは、記録アプリを導入して業務の効率化を進め、利用者に寄り添う時間を増やし、本人本位の支援に繋げている。感染症対策を講じながら、散歩や玄関先での外気浴などで気分転換の機会を作り、ユニット内を過ごしやすい設えにするなど、安心と寛ぎ感のある環境を作っている。家族へはラインやビデオ映像を取り入れて利用者の様子を伝えている。活発な委員会活動や、幅広い年齢層の職員それぞれの持ち味を活かし、理念に基づいたケアサービスの提供に日々励んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して企業理念・ケア理念の研修を行っているとともに、毎朝の申し送り、全体会議の際には「6つの誓い(さくらの理念)」を参加者全員で唱和し、日々のケアで理念の実践に向け取り組んでいます。	理念(六つの誓い)は事業所の要所に掲示し、朝礼時の唱和や入職時研修で理解を促している。利用者支援にどのように結び付けていくか、また日常の実践が理念の具現化になっているかを常に確認し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の児童も定期的に遊びに来ていただき交流を深めています。コロナ禍以降はオンラインや書面に切り替え継続しています。地域の方々には畑や花壇の整備にご協力いただいています。	地域との交流や貢献を重ねている。地域活動に会議室を開放し、幼稚園児や小・中学生の体験学習の受け入れ、地域や事業所祭りでも交流を深めている。現在は子供達と絵手紙やビデオレターを交換し、ボランティアの方々との繋がりも大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	“中学校の授業の一環として福祉施設見学で認知症の症状への理解、人としての関わりの大切さの座学を行い、入居者様との交流を図っています。コロナ禍以降は絵手紙や動画での交流を続けています。”		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	“地域運営推進会議でホーム課題に対し、意見やアイデアを頂き取り組みに活かしています。コロナ禍以前は地域運営推進会議に地域の方にも参加いただいております。”	定期的に運営推進会議を開催し、事業所や利用者の現状、活動面、地域交流等を議題に意見交換をしている。今年度は、状況により書面会議に変更して行い、メンバーに報告している。	家族や地域住民の参加が少ない状況にある。今後の感染状況を踏まえながら、会議への参加要請の取り組みを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	“月1回の入居状況の報告や、市主催の勉強会に参加し、ホーム運営に繋がっています。コロナ禍以降は勉強会への参加は見送っている。”	行政とはホーム長を中心に対応しており、各種報告事項や認定調査、コロナ感染症関連では随時情報や指示を仰いでいる。運営推進会議の委員に包括支援センターや介護予防センター職員を迎え、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の施錠は防犯上の考えも含め、夜間のみ実施、日中は、入居者様の意思を尊重し、出入りができるように見守りケアを行い安全に行動ができるようにしています。また、身体拘束防止の委員会を設置し、勉強会も含め、身体拘束ゼロに向けて取り組んでいます。コロナ禍による面会制限実施以降は感染対策のため玄関の施錠は行っていません。	身体拘束防止に向け事業所内に委員会を設置し、定期的開催と勉強会を行っている。全職員共有の下、禁止対象となる内容の理解と拘束のないケアの実践に取り組んでいる。グレーゾーンについても勉強会や会議で取り上げ、未然防止に向けて意識統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や介護マニュアルを活用した個別研修を実施し、虐待防止の徹底に努めています。また、職員間のコミュニケーションを積極的に図り個人でストレスをため込まないように定期定期的に面談を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	令和3年からケアマネ委員会を設置しています。ユニット責任者は勉強会に定期的に参加し、今後は施設の職員が学ぶ機会が持てるよう、ホーム内の研修を行っていく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	“契約、解約の際に詳しく説明しており、理解、納得を図っています。文面での説明のほか、来訪時改めてご説明をしております。コロナ禍により感染対策としてご家族の来訪が制限されている状況では、ビデオ通話を活用している。”		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“日々の関わりの中で意見、要望を伺い、毎月送付する手紙に意見欄を設けています。コロナ禍以前は家族会を開催して、ご意見を聞ける機会を作っています。内容に関しては、議事録を作成しご家族、全職員に周知しています。”	家族の意見等は、面会時や家族会等で聞く機会を設けている。現在は窓越しの面会であるが、毎月個別に近況報告を行い、家族の要望により、ラインの活用や介護記録の送付、行事の際の動画配信など、利用者の様子を伝える方法を工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	“定期的に管理者との面談と朝礼時、職員からの提案を聞く機会を作っています。週に1度役職者のミーティングを行い、課題の解決に努めている。”	業務中や面談場面など、日常的に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。全職員が所属する委員会活動での意見も積極的に吸い上げており、一例としてオンラインで家族や地域の子供達との連絡や交流に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	“積極的に介護福祉士を受験できるように初任者研修や実務者研修受講者には受講料の補助制度があります。また、定期的な面談をし向上に努めています。”		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護マニュアルのプログラムを導入し、企業理念・ケア理念をはじめ、介護技術の向上に努めています。各ユニットに教育責任者をたて、個々の職員が段階的に成長できるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	“介護予防センターとお互いの役割を活かした交流や区の勉強会に参加。責任者は実践者研修に参加。他事業所との交流も深めている。”		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	“新規入居に際して、入居者様、ご家族等に聞き取りを行い、事前のカンファレンスを行うことで入居者様に必要な支援ができるように準備しています。ご本人が新しい環境で安心して過ごして頂けるよう、望まれることに耳を傾け、実現できるよう取り組んでいます。”		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	“新規入居に際し、ご家族様と話し合い、不安なことや疑問に思うことなどの聞き取りを行い、安心した状態で入居できるように努めています。ご家族の希望は介護計画に反映させています。”		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	“ご本人や家族の状況、今現在何を優先に生活すべきかを話し合い、また入居前の状態を把握するために、モニタリング、リスクヘッジを含めたアセスメントを行い介護計画に反映させています。”		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は事業所のケア理念を実践するとともに、パートナーとしてご本人が望まれることに対して心を傾け、深い人間関係を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	“入居者様のケアを職員だけではなく、ご家族様も入居者様を支援していく上で大切な協力者であるという考えのもと、ご本人やご家族のご様子などを双方向に対して積極的にコミュニケーションをとりながら、ご本人とご家族の絆がずっと続いていくよう、日々の支援しています。”		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	“入居時には今までついていた馴染みの物(仏壇等)を持ってきて頂き、馴染みの場所にいたり、人に会えるようにキーパーソン様を中心に相談をして支援につなげています。お電話ではビデオ通話などを活用し、お顔を合わせたコミュニケーションができるよう支援しています。”	現在、馴染みの人や場との継続は難しい状況であるが、知人や友人等から連絡があった時にはビデオ通話の対応も可能であり、年賀状や手紙のやり取りも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごされる方が多く、入居者同士で会話を楽しんでいただけるよう、朝食後、昼食後は毎日、お茶の時間を設け、まだゆったりと過ごして頂ける場を提供しています。職員が会話の橋渡しをするなどし、全員が共同生活の場を楽しめるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	“退去後も、その後のご家族の心情やお困りごとについて気軽に相談くださるよう伝えていきます。退去後に亡くなった方などは連絡をいただき感謝の言葉をいただくこともあります。”		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	“一人一人にあった支援をするためにどのような意向を持っているか、目下の課題は何かを職員間で共有し、把握するように努めている。困難な場合は本人の希望に添えるように支援しています。”	本人の意向を大切にケアをするために、様々な場面で思いを聞き取り、記録に残している。言葉での把握が難しい場合は、本人の様子や以前の生活からの推察、家族の情報も加えて本人の思いに近づけるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	“入居前のご本人、家族との面談、センター方式を記入して頂き、把握しています。入居後も、昔の話を伺い、職員間で周知に努めています。”		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	“センター方式や生活チェック表の記入、申し送りや会議において、状態の変化と課題、行うべきケアの話し合いをしています。”		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	“介護計画を作成するに当たり、ご家族様の意向を確認し、介護計画に反映させています。状態が変化した場合は職員間でカンファレンスを行い計画へと反映させています。”	介護計画は、3か月毎や状況の変化に即して見直し、モニタリングやカンファレンスを実施している。家族の意向や医療関係者の情報、本人の言葉からニーズを導き出し、自立を支える計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容は介護記録アプリを使用し記録しています。職員間の情報共有は、朝礼・夕礼時の送りの場のほかに、よりスムーズに情報が共有できるようグループウェアを活用し、支援の実践や介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	“急変時の緊急受診対応や、定期受診、希望の外出先への送迎を行なっています。また、職員対応後は、ご家族に連絡を取らせて頂いています。”		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	“児童会館との定期的交流(畑作り、ゴミ拾い、収穫祭、味噌作り等)や、幼稚園の園児の来所はコロナ渦で難しくなっています。季節のイベント等がある場合、動画配信サイトを利用し、入居者様に観賞して頂いています。”		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	“提携病院の定期往診以外のかかりつけ医の受診が必要な場合は、感染対策を実施した上でご家族様と協力しあい受診しています。”	利用者と家族の意向を尊重し受診を支援している。月2回の訪問診療を殆どの利用者が受けており、専門科等の受診は家族を基本に、状況により事業所に対応している。現在、看護師とはファックスと電話で個別の健康状況を共有し、指示を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は、週1回の看護師による健康管理はコロナ渦の為、書面と電話連絡により対応しています。提携医療機関と24時間連携をし、体調に変化があればすぐに報告し指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	“急変時には、提携医療機関と共同し、適切な専門医療機関を受診できるようにしています。入院中においては、ご家族様の意向、当施設の意向もしっかりと病院にお伝えしご本人にとって最善の形になるように努力しています。”		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	“入居時に「重度化・終末期における対応指針」を説明し終末期に対する意向をお聞きしています。状況に応じて意向が変わっていないかを確認し、ホームでの看取りを希望された場合に、看取りの同意書に基づき、ホームで出来る事と出来ないことに対して理解を頂き、支援をしています。”	看取りケアの実践を重ねており、利用者、家族とは、契約時や状態の変化に伴い重度化や終末期の在り方について説明、意向確認を行っている。事業所での終末を希望される場合は、職員体制を整え、主治医や看護師と密に連携して支援に臨んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	“急変や事故発生時は、作成しているフローに基づき、24時間対応の連携医療機関に連絡し都度指示を受けています。事故発生時のマニュアルはあるが、初期対応訓練は実施していない。”		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	“定期的に、消防や地域の方を交え、防災夜間想定訓練を行なっています。”	今年度は、事業所内で火災想定避難訓練を実施している。非常災害時防災マニュアルを作成し、自然災害に対応する体制を整備している。水や食料、備蓄品を準備し、自家発電など停電対策も講じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を守れるように事業所のケア理念にもとづき日々のケアの実践に取り組んでいます。言葉かけでは丁寧語の使用を徹底しています。	人格の尊重を謳った理念の下、研修や日々の実践を通して利用者一人ひとりに向き合う姿勢を確認している。特に言葉掛けの重要性を認識し、節度ある接し方を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員目線のケアになってしまわないよう、職員は日々の入居者の発言や様子に心を傾け、また積極的にコミュニケーションを行いながらご本人の望むことを探り、自己決定できるよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	“職員の都合やペースを優先せず、本人の希望に添えるように日々のケアを実践しています。”		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用しています。コロナ渦で訪問美容の利用が難しいため、入居者様が希望された場合などに職員が整髪やお化粧をさせて頂いています。また誕生日やイベント時はおしゃれをし、写真撮影を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“食事の準備や、洗物や片付けは入居者様に手伝っていただき役割を持っていただいています。”	利用者のできることで、一緒に食事の支度をしている。リクエストは週1回のフリーメニューやおやつで楽しんでいる。誕生日はケーキと本人の好きな料理で祝い、季節行事でも寿司や茶わん蒸し、ピザなどで満足感に繋がるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	“食事形態を工夫し、普通食が食べづらくなっている方も十分な栄養をとれるように努めています。また、チェック表を活用して、1日の摂取量を記載し、十分な確保が出来るように支援しています。”		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれの口腔状態に応じ、口腔ケアを行っています。また訪問歯科とも相談し、義歯の調節や新調も積極的に行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	“毎日の排泄の状態を、チェック表を活用しながら、排泄の間隔を把握しています。排泄の失敗を極力少なくするように努めています。”	トイレでの自然な排泄を重視し、立位が不安定な人も日中は二人介助で対応している。安易にリハパンやおむつを使用せず、個々の排泄リズムや様子の把握で事前の誘導に努めている。排泄場面ではさりげなくタオルを掛けることも当然のこととしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	“水分の接種や乳製品の提供、また医師や看護師と相談し、便秘にならないような工夫をし予防をしています。”		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	“週に2回の入浴ができるように努めるとともに、入浴がストレスに感じる方には声掛けの工夫や時間帯の調節をし、楽しんで入浴ができるようにしています。”	利用者個々に週2回の入浴を基本に、ゆっくり気持ちの良い入浴になるようにしている。拒否感には無理強いないせず、まず関係性を築く事を優先している。1対1の会話や湯上り後のドリンクも楽しみの入浴を誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	“殆どの方がリビングで過ごされていますが、好きな時間に昼寝をしていただき自由に休息、睡眠して頂いています。”		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	“服用している薬については薬情報をファイルにまとめ、いつでも見れるようにしています。かかりつけの薬剤師にも相談し薬の理解に努めています。”		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	“役割を持った生活が出来るように、支援内容を介護計画に記載し張り合いのある生活が出来るように支援しています。”		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中遠出が難しいですが、近隣公園などに出かける機会を設け、リフレッシュして頂けるように努めています。	遠出のドライブ、商業施設や近くのコンビニでの買い物、家族と外出や外食に出掛ける利用者もいる。今年度は三密を避け、隣接の広い公園は散歩コースとして楽しみ、玄関前のベンチで外気浴や桜見物をするなど、外気に触れ気分転換の機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同伴で近くにショッピングモールに出かけお菓子などのお買い物ができるように支援しています。コロナ禍以降は概ね入居者の希望の品を職員が代行し継続しています。小銭の範囲ではありませんが、お金を自身で所持・管理している入居者は少数いらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	“ご家族様や知り合いの方からの電話は取次をし、ゆったりと話ができる環境を整えています。また、コロナ禍によりホーム内での面会が難しい状況ため、ビデオ通話を取り入れています。”		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はリビングで過ごされる方が多いため、不快な刺激がないよう次亜塩素酸 空間除菌脱臭機を24時間使用するとともに、1日3回リビングの換気を行っています。また季節のイベントにあわせた飾り(雛人形、クリスマス、ハロウィーン)を取り入れています。	玄関フロアは、和風テイストの落ち着いた雰囲気であ訪客を迎えている。リビングは広く、温・湿度、換気など、気になる刺激に配慮している。ユニット毎で利用者に合わせて設えを工夫し、寛ぎのスペース作りや歩行器や車椅子の動線に合わせ、ゆったりと過ごせる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	“玄関スペースには桜の木を見渡せる共用空間、サロンの開放、リビングにソファースペースを確保し、一人になれたり、気の合う入居者と談話できる空間があります。皆さん自由に過ごされており、その際の安全にも注意しています。”		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	“入居時に使い慣れた家具や好みの物や、仏壇等を持ってきていただいています。本人の状態に合わせながら相談し、家具の配置・見直しを行っています。”	居室には、洗面台やベット等が備えられ、使い慣れた筆筒やテーブル、仏壇等が置かれてある。お茶セットや好きな本を手元に置くなど、プライベートスペースでその人らしい過ごし方ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	“本人の安全を確保できるように、テーブルやソファの配置を工夫し、本人のやる気や活気を生かし、けがをせず歩けたり活動できる空間づくりを行っています。”		